

平成28年度 学外委員の意見及び意見に対する対応状況

会議名	議題・タイトル等	学外委員からの意見	本学の対応状況
経営協 議会	平成28年度入学 者選抜状況について	<ul style="list-style-type: none"> 本学の教員プロフィール等による世界的な研究業績のPRや、世界的に著名な学者を招聘し、その講座の開講等を宣伝する等といったことも志願者の増加に繋がると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員の研究業績を含めたプロフィールについては、研究者ガイドという形で発表した。このほかクロス・アポイントメント制度を利用して、平成29年4月に海外の著名な研究者2名を本学教員として雇用する予定である。
	平成27年度卒業・修了予定者の 進路状況について	<ul style="list-style-type: none"> 大学紹介のパンフレット等における進路状況については、受験生から見てわかりやすいものになっているか検討したほうが良い。特に新学部については、卒業後こういったフィールドや企業で活躍出来るのか等について、もっとイメージ出来るものがあると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年4月開設予定の海洋資源環境学部の広報については、計画的かつ効果的に実施するため、的確な広報時期を勘案した広報工程表を作成した。広報活動の主な例としては、羽田空港、東京駅など交通機関等への宣伝用看板設置、予備校や受験情報サイトへのバナー広告掲載、新聞広告や朝日新聞出版発行のAERAムックへの特集記事掲載等を行った。また、海洋資源環境学部のホームページを作成し、大学Webサイトのトップページから閲覧できるようにしたほか、随時教育研究の内容や研究者情報、受験生向けQ&Aなどの詳細情報を充実させた。受験生向けに作成した海洋資源環境学部のリーフレット及びクリアファイルを、オープンキャンパスや東京、大阪等の受験生向けのイベントや高校等での入試説明会、高校教員向け説明会などで配付した。「海の日」記念行事においては、受験生向けに「新学部・新学科の紹介、新しくスタートする予定の海洋資源環境学部とはどんな学部か」と題した説明会を行い、予想以上の活況があった。
	ビジョン2027 パンフレットについて	<ul style="list-style-type: none"> 新学部の設置についてPR出来る期間は短いので工程表を作って示してほしい。また7月20日の海の日等の外部のイベントを利用した広報についても検討する必要がある。 	
	平成28年度オープンキャンパス (夏)等について	<ul style="list-style-type: none"> 新学部の説明会があったという話だが、オープンキャンパス参加者表を見ると、地方からの参加者数が寂しいという印象を受ける。特に高校生への、新学部の浸透度・知名度についてどのように感じているか。 	<ul style="list-style-type: none"> オープンキャンパスの際に、高校の進路指導担当教員向けに学部新設改組説明会を実施し、60名以上の参加者を得た。また、平成28年度は、全国の高校への資料送付に加え、新学部所属教員が全国各地の高校訪問を行い新学部広報に努めた。(92高等学校へ訪問)
		<ul style="list-style-type: none"> 新学部開設については、高校だけでなく、予備校にも積極的に情報を伝えてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度中に予備校に教員を派遣し、説明会を2回行った。また、予備校や受験情報サイトにバナー広告を掲載した。
平成28年度卒業・修了予定者の 進路状況について	<ul style="list-style-type: none"> 新学部卒業生の受け入れ先については、日本近海の掘削事業のみならず、様々な企業で海洋開発部門は着実に伸びてきている。企業がどのような人材を求めているのか、より一層リサーチを行い、そのニーズを把握してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでに実施した海洋関連企業等へのアンケート調査の情報等に加え、新学部設置のためのアドバイザーボード委員、教員配置戦略会議学外委員などの学外有識者から意見をいただくことで社会のニーズを把握するよう努めている。 	

会議名	議題・タイトル等	学外委員からの意見	本学の対応状況
経営協 議会	その他	<ul style="list-style-type: none"> 1907年9月韓国迎日湾にて起こった、本学の前身である水産講習所の初代練習船快鷹丸の遭難事故から来年（平成29年）で110年目となる。来年度、一般社団法人楽水会有志が現地を訪問し、記念碑を慰霊訪問することを計画しているが、その際に本学の練習船を浦項港に派遣するなど、ご支援をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 一般社団法人楽水会（東京海洋大学海洋科学部同窓会）から要請のあった快鷹丸遭難110周年の参拝に係る本学練習船の派遣について、平成29年8月に神鷹丸を韓国に派遣することを決定した。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> サバやスルメイカといった魚種の不漁は、卸売市場をはじめとして漁業界が直面している問題である。魚種の交替などの研究に関する本学の対応状況について教えてほしい。 明治丸はリニューアル一般公開後、年間約7200人が見学に来ている。土日に見学できるようにするなど、さらに大勢の方に見てもらえる工夫をしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 多獲性浮魚資源の不漁が続いているという指摘を受け、海洋科学部を中心に本学内で魚種別の検討体制を作り始めている。本学独自のつながりを生かして進めていきたい。 土日の開館は原則第1及び第3土曜日だが、海の日、オープンキャンパス等学内行事やお江戸深川さくらまつり等近隣のイベントに合わせ日曜・祝日にも開館している。土日祝日の見学希望が多いことを踏まえ、平成29年度は試験的に5月のゴールデンウィーク中の開館を予定している。また、明治丸のリニューアル一般公開後に開催した「明治丸フォトコンテスト」は第2回として子供絵画部門を増やし5月末まで公募している。
	【意見交換】 これからの東京海洋大学に期待すること～財政基盤について（大学基金・外部資金等）～	<ul style="list-style-type: none"> まずは様々な機会に個人寄附のアピールをしてはどうか。 寄附をしてもらうためには、寄附がどのような使われ方をするのか、イメージを持ってもらう必要があると思う。 寄附者に対して何らかの優遇措置をとることを考えてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年4月からは事務局に基金渉外課を新設し、寄附金獲得体制を強化するとともに、いただいた御意見を踏まえ、さらなる寄附金獲得のための方策を検討し、実行していきたい。
	【意見交換】 東京海洋大学におけるワークライフバランス支援の取組	<ul style="list-style-type: none"> 育児休業取得等の制度は女性教職員のためだけのものではなく、男性が活用することこそが重要だということをしっかりと宣伝してほしい。男性教職員が制度を活用して当たり前の状況を作ること、職場環境をより良いものとしていけると考える。 商船の船員は、近年少しずつ女性の採用が増え、女性船長、機関長等も誕生し始めたと聞いている。昔と比べ、本学的女子学生比率は上がってきており、それに合わせて女性教員を積極的に採用するなど、環境を整えてほしい。 優秀な女子学生を増やしていくこと、また、活躍の場があることを示し、学生を優秀な研究者として育てていくことを、本学全体のプログラムとして考えていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 男性教職員への育児休業取得等制度の活用を促していくことは今後も進めていきたい。また、介護を行う教職員へのサポートも少しずつ進めている。 女性研究者のすそ野を広げる意味でも、本学で毎年開催している「女子学生のためのキャリアパスセミナー」や講演会などの機会を利用して、女性の船長や機関長等の話を聞けるような機会を増やしていきたい。 本学はガバナンス改革の中で教員人事を教授会から学長が議長を務める教員配置戦略会議に移管しており、学長主導で人事を進められるようになった。今後、女性活躍に向けたプログラムを作成し、その人員配置を行っていくことなどを外部有識者などとの議論も行いながら進めていきたい。

会議名	議題・タイトル等	学外委員からの意見	本学の対応状況
大学改革アドバイザーボード	その他	<ul style="list-style-type: none"> 今後外国人教員を採用するにあたり、サポートする事務体制が必要なのではないか。他大学では外国人教員のためのコンシェルジュデスクを設置しているところもある。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本語を母語としない外国人常勤教員及びクロス・アポイントメント教員を新規採用するにあたり、言語面でサポートする事務職員を配置し、在留資格の申請や着任後の教育研究、事務手続等に関する活動のサポートを行っている。